

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム菜の花しのろ館2	評価実施年月日	H19年10月1日
評価実施構成員氏名	長谷川静 梶田 ふじ恵 片山 由美子 林 玉恵 佐々木 陽子 坪田 和純		
記録者氏名	長谷川 静	記録年月日	H19年11月16日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>独自のケア理念、ホーム理念の中に地域とのふれあいや地域の中でその方らしく生活できるように理念をかかっている。</p>	○	理念はホームの目につくところに掲示している。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>理念が常に確認できるように、名札の裏に携帯している。</p>	○	朝のミーティング時に復唱し、一日の始めに理念を確認、介護の理念に基づいたものになる様取り組んでいる。また、新人研修で理念について、理解してもらうようにしている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議、家族会で地域の中で暮らしていく大切さを説明している。</p>	○	地域の行事に参加した際は、事業所のパンフレットを配り、理念を理解していただいている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>散歩の時や買い物などの外出時には挨拶を交わしたり、話したりしている。行事に参加していただくこともある。</p>	○	散歩時お互い名前を呼び合い会話がはずんでいる。更に、立ち寄りやすい雰囲気作りをしていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内のお祭りや文化祭、音楽会鑑賞に参加したり、女性部の廃品回収に協力させていただいている。女性部の行事に参加し地元の方々と交流に努めている。</p>	○	子供110番に登録をして、緊急時対応できるように玄関先に張り紙を掲示している。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域の方にグループホームとは、どういう所であるかなどの説明文を配布したり、介護の悩みや相談に対応させていただいていることを行事参加時お伝えしている。</p>	○	実際に行事参加時に相談される事が多いが、相談に来られたり、電話での相談などは少ないため、気軽に相談できるように働きかけを行って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員全員に評価表を渡し、それぞれ記入、その後スタッフと検討し自己評価に取り組んでいる。外部評価を受けて、改善すべき点を常に確認しながら改善、実施に努めている。</p>	○	外部評価をホームの学びの確得に最大限活かしている。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議の中で、日々の活動や行事等の報告を行い、話し合いや意見をいただきサービスの向上に努めている。</p>	○	地域に密着した、話し合いをし、町内の方々の意見をいただきながら、開かれたホーム作りをしている。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議以外で、市の担当者と関わりを持てる機会は少ないが、管理者会議の時に、市の担当者の方からの業務連絡を受け、それを実践している。疑問点等については、電話等で聞いている。</p>	○	管理者会議以外でも、急を要する事は、市の担当者からファックスにて連絡があり、確実にスタッフ間にも周知させて、サービスの向上に努めている。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>社内研修で、地域権利擁護事業や成年後見制度について学んでいる。しかし、活用できるように支援するには至っていない。</p>	○	新規で入居された方が成年後見制度を活用しており、学ぶ機会があったが必要な時に支援できるように、更に理解を深めていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待防止について会議や研修で学び、しっかりと認識して虐待のない介護を実践している。</p>	○	常に再認識し、虐待がないように学ぶ機会を定期的に持っていく。新入居の方については、自宅などでそのようなことがなかったか、全身状態の観察を行なうようにしている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時に担当者より、十分な理解を得られるようにしており、納得をしっかりとさせていただいたうえで契約している。検討したいとの申し出があれば再考できるように配慮している。</p>	○	契約後であっても、ご家族様の不安、疑問などがあればいつでも対応し、ご家族様の不安、疑問を解消できるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様からの意見や不満、苦情はしっかりと受け止め話し合いし、早期に対応し改善している。また、うまく伝えられない入居者様には、日々のご様子や行動・言動から把握して対応に努めている。	○	苦情のあった時は直ぐにスタッフで検討し、苦情処理ノートに記載、全員が把握しサービスの向上に努めている。直接、管理者や職員に苦情を伝えづらい場合は外部の苦情処理窓口の連絡先をホームの入り口に掲示している。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族様来所時に日常のご様子や変化などを直接お話している。状況により直接お電話でお話して、報告している。金銭管理については、個人出納簿で出入金の内容を定期的にご家族に郵送している。	○	来所の機会が少ないご家族様には、ホームのお便りのほか個人的に早急にお伝えしたいことは、ご家族様ご了解のうえで、FAXにてお知らせしている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来所時にできるだけ、お話し之机をもち意見や不満・苦情を受けれるように努めており、直接お話しがしにくい場合のために意見箱を設置している。	○	家族会や運営推進会議の家族代表の方より意見を聞いている。外部の苦情処理窓口をご家族様にお伝えしており、連絡先などホームの入り口に、わかりやすく掲示している。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議や毎日のミーティングの際に話し合いをしている。また、運営者側からアンケートで意見や提案を周知して反映できるように努めている。更にユニット会議やホーム長会議で職員の意見や提案を聞く機会が設けられ反映されている。	○	意見や提案を出せるような雰囲気づくり、場面作りに取り組んでいる。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務の調整はできている。できるだけ柔軟に対応できるように努めている。	○	入居されてから数年経過し、入居者様の身体状況も変化が見られるようになり、医療面での援助が多くなっている。今後も柔軟に対応するために人員や対応について取り組まなければならない。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者様にダメージを与えるような移動や離職などはない。	○	新入職員は入居者様一人ひとりにきちんと紹介している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新人研修や高齢者、認知症介護に関する研修の他、外部の研修にも可能な限り参加できるように運営者は取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>本社に教育課があり、介護部長より人材育成についての意見やアドバイスを受けている。職員からの要望にも対応して、社内研修を実施している。また、研修参加者は、復命書を書き伝達講習も行なっている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同業者内のグループホームでの交流、会議、研修は実施されているが、地域の同業者との交流の機会は少ない。</p>	<p>○</p> <p>地域の同業者ともしっかりと積極的に交流の機会を作るように取り組んでいきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休憩がゆとり取れる様に、スタッフルームがある。ストレスを最低限にするために、スタッフ間のトラブルがないように、会議の時や随時話し合いを行い解決している。</p>	<p>○</p> <p>全職員に対してストレスに関する調査を実施、その結果をもとにストレス軽減に向け検討中である。会議の時や日々のミーティングの時など、介護に対するストレスを、お互い共有出来るストレスもあり、解決策を検討し、ストレスを軽減しているが、誰もが意見を言えるような環境作りに取り組んでいる。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員個々の努力や実績、勤務状況は把握しており、向上心につながるように努めている。時給等資格に応じて昇給などがある。さらに人事考課も実施している。</p>	<p>○</p> <p>個人の実績や努力を考慮し、昇給や昇格などもある。また、実績などにより、更にスキルアップできるように研修に参加させて向上心を持って仕事ができるように努めている。運営者や、事業部長が頻回に訪問、悩みを聞いたり、業務の状況を把握している。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族様とご本人様もホームを見学されたり、又職員がご本人様の住居や病院を訪問し意向を聞き、できる限りコミュニケーションを取り、状況を早期に受け止め話を時間をかけてゆとりと聞くように努めている。状況をしっかりと受け止め、対応できるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>時間をかけてしっかりと信頼関係を築くようにしており、個人に合わせた対応を心がけている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居時にできるだけご家族様が困っていること、不安を受け止め、時間をかけて信頼関係を築き安心して利用していただけるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>新入居時にはご家族様の不安の気持ちを考え来所時や、電話などでご様子をお知らせしている、更に、ご家族様の意向等を聞きながら、関係の構築に努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様とご家族様の意向や状況を把握し、必要と思える援助などを検討して対応できるように努めている。	○	状況の変化やご家族様の意向があった時は早急に検討して対応している。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	安心してサービスを利用いただけるように、その方のペースを壊さないよう配慮しながら対応している。	○	体験入居や、ご家族様と1日だけ体験、食事と一緒に食べてもらい、ホームの雰囲気を見てもらいその後入居の有無を検討していただいている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	「家族」として共に助け合う「心」を大切に過ごし。と言うケア理念に基づいて、小さな喜びや楽しみを共有し、悲しいことは慰め、怒りの感情も受け止め対応している。	○	介護される側、する側ではなく「支えあう」という気持ちを大切に人生の大先輩として敬う心も持ち対応に努めている。料理を教えていただいたり、子育てのことなども助言をいただいている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	随時ご家族様との連絡や面会時に利用者様の様子等を細かに伝え、連携を密にして、ご家族様と共に入居者様を支えるように努めている。	○	職員が対応しても不安や不穏が続いた時はご家族様に電話でお話しをしていただき、また面会に来ていただく等、ご利用者様を共に支えていける関係となっている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族様、ご本人様の意見や状況を把握、ご家族様からも本音でお話をお聞きすることができており、ご本人様とご家族様の関係を理解してよりよい関係を築けるように努めている。	○	新入居時にセンター方式のアセスメントの生活シートで情報をいただき、ご家族様との、よりよい関係を築けるように役立てている。それぞれ家族様も様々な思いを抱えていることが多いが、本音でお話をしてくださっており、ご家族様との信頼関係が確立できている。また、ご家族様と一緒に過ごせるよう、行事等にも参加していただける様に促している。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様付き添いで外部のお友達と交流があったり、ご家族様の了解をいただきお友達が面会に来てくださったりと、関係が途切れないように努めている。	○	お正月やお盆などご家族様が可能な限り自宅で過ごす機会を作っていたるように努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	相性の善し悪しに配慮、お互い支え合えるようにスタッフが調整役となり、利用者様同士支え合う場面も多く見られている。	○	行事の計画などを入居者様で話合っていたり、関わり合いの機会を持つようになっている。意見を交換し、自然に関係の構築ができるように努めている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後もしる館とは、関係が続いており何かがあれば、いつでもご相談してほしいと伝えている。ご家族様が会いに来てくださったり、車イスを寄贈してくれたり関係は続いている。	○	サービス利用が終了しても近況報告してくださっている。また、ご家族様の了解をいただき、面会に行く事もある。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の中で、暮らし方の意向や希望等を色々な場面を大切に把握し、その都度沿えるように努めている。	○	上手く意向や希望を伝えられない方には、暮らしの中や言動から少しでも把握できるように努めており、時にはご家族様のご協力をいただいて、意向や希望に沿えるようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活シートや暮らしの情報を記載していただいたり、ご本人様やご家族様から状況をお聞きしている。居室には、今まで使用していた物や馴染みの物をできるだけ、持参していただくようにしている。	○	自宅で使用していたお箸や茶碗なども使いやすく馴染んだものを持参していただいたり、仏壇なども持参されている方もいる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の過ごし方も心身状態により異なるが、小さな動作やサインから感じ取り、状態に合わせた対応に努め、暮らしの中で持っている力や隠れている力を見極め、力を失わないように努めている。	○	できないと決めつけない様に対応し、できる力、できそうな事の発見を今後も更に行なって行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人様、ご家族様より意向や希望を聞き、更にアセスメントし、ユニット会議の中で検討し、介護計画を作成している。	○	日々の生活の中で気づきが見られた時は小さな事でも、気づきのシートに記入してチームで把握し、必要であれば早急に介護計画の見直しを行っている。更に定期的にモニタリングをしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的には3ヶ月毎に見直し、立案しているが、病気の悪化や入院などで状態や状況の変化があれば、ご本人様、ご家族様、関係者と話し合い新たな介護計画を作成している。	○	ご本人様が上手く伝える事ができない事が多く日々のなかでの言動や表情などで気づいた事を気づいた職員が気づきのシートに記入して参考にしている。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護日誌やケース記録、毎日のミーティングで頻繁に情報を共有し、介護計画見直し時に活用している。	○	飲水量、食事量、排泄状態、バイタルなどの身体状況を記入。更に、日々の気づきを気づきのシートを活用して、ケアの実践、介護計画の見直し時に活用している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	外出の介助、受診同行など、ご本人様やご家族様の要望に合わせた対応を行なっている。	○	外出、受診同行以外でも、柔軟に対応できるように職員の人員等も考慮し、支援できるように取り組みたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの皆様により、畑仕事や行事への参加等、地域の方の協力をいただいている。	○	消防訓練や救命救急の講習を地域の方々も参加していただき実施した。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要なサービスが受けられるか検討しており、利用できるサービスは活用している。	○	利用者様の状態の変化により、検討しておむつ支給サービスを利用している。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通して周辺情報や他のグループホームでの推進会議の課題についてアドバイスをいただいている。	○	権利擁護の件や要介護度が要支援1となった時は地域包括支援センターに依頼、相談を行なっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者は、看護職員を兼務しており、近隣の担当医との連携も密に取られ、必要時は、報告相談しながら支援している。	○	管理者が看護職員で、健康管理を行っており、利用者様の支援がスムーズに行なえる。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	急激な認知症の進行時は、認知症専門病院をご家族も同行していただき、受診している。また、診断や治療に関し、利用者の状態等を含め、観察・支援している。	○	急激に認知症が進行して、ご家族様と専門医師、職員で相談のうえ治療を開始し、その後、緩やかとなり安定した生活の状態まで回復した。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者が看護職員であるため、日常の健康管理や適切な医療への受診のアドバイスをもらえ、常に報告、相談して支援ができています。	○	看護職員は日常的に健康の管理に努めており、利用者様とも馴染みの関係となっている。したがって、利用者様が直接相談しており、適切な支援が行なわれている。また、食事制限について看護師が説明することで納得していただき、食事療法もスムーズに実施できている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	お互いに情報の交換を書面で行なったり、相談等も行ない早期退院に向けて連携している。	○	入院が長期化している時はお見舞いに行き直接、状態を確認し、病院とも連携を取り、退院時の受け入れ態勢を整えるようにしている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に説明し、同意書をいただいているが、その都度、状態に合わせてご本人様やご家族様の希望を尊重し、医療サイドとも話し合い、納得の得られる選択ができるようにしている。	○	重度化・終末期をご本人様とご家族様の希望を尊重して、医療サイドの協力も得て、納得の得られる選択をして終末期を迎えた方や、適切な医療関係で長期の治療をすることになった方もおられ、その都度、支援できるように努めている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご本人やご家族の意向を踏まえながら、できるだけホームで過ごしていただけるよう、チームで支援に取り組んでいる。また、事業所内に介護部長(看護師)がおり、相談しアドバイスを受けている。	○	24時間対応の医療体制をしっかりと確保できるように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>理解がある程度できる方には、根気よく話し説明を行ったり、馴染みの家具や愛着のあるもの、更に使い馴染んだ物を使用していただき、ダメージを最低限にするように努めている。</p>	○	<p>グループホームから別の居宅に移り住む例は今までなかった。しかし、環境の変化がある時は、十分に話し合いや相談をして対応している。グループホームに入居された時は、安心して生活ができるようにご家族様と話し合いをしている。入居者様の不安が解消されない時は面会に来ていただき、いつでもご家族様と会え安心して生活できる場所であることを理解していただいた事もあり、ダメージを最低限にできるよう取り組んでいる。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人記録などの個人情報については厳重に取り扱いしており、一定の場所に保管し、重要な物については、鍵付きの書庫に保管している。言葉かけや対応はその方に応じて留意しなければならない点を踏まえた上で行なっている。</p>	○	<p>誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけがないように、職員同士でもお互いに注意ができるように取り組んでおり、実践している。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>現状は希望の表出や自己決定ができる方が多いが、上手くできない利用者様には、個々の理解力に合わせて対応している。衣服や外食時のメニュー等、利用者様自身で選んでいただけるよう支援している。</p>	○	<p>個々により異なるが、いくつか選択ができるようにして、自己決定していただいて、ご自分の意思で決められ、更に納得できるように支援している。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>困難な時もあるが、できるだけご本人様の希望に沿えるように努めている。例えば、急に散歩に行きたい、また買物に行くと言われた時は、業務を後にし、出かけている。</p>	○	<p>業務改善をし、できるだけ利用者様の希望に沿えるよう取り組んでいきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理美容制度を利用しており、ご本人様のご希望により、利用していただいている。ご本人様が今まで利用しておられた馴染みの理美容があれば、利用していただくように支援している。</p>	○	<p>女性の方は特に身だしなみやおしゃれに敏感であり、いつでもご希望に沿えるように、お化粧品道具を用意している。介助の必要とされる方は、職員がお化粧品をお手伝いさせていただき身だしなみとおしゃれの支援に取り組んでいる。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>事業所の栄養士による共通献立で、食材は配達されるようになっていく。準備や食事、後片付けも利用者様と楽しみながら行なっている。</p>	○	<p>共通献立になっているが、利用者様と相談して、ある材料でメニューの変更をし、一緒にお料理して食事を楽しんでいる。利用者様のご希望に沿えるようにしており、栄養士にメニューをリクエストすることができる。個人の好みによっては、別メニューで対応したり、味付けにも個別に対応しており、食事をより楽しく、美味しく食べていただけるよう取り組んでいる。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒を飲まれる方はおらず、喫煙したい方はいるが、肺がんのため禁煙している。飲み物やおやつに関しては、好みの物を楽しんでいただけるように支援している。	○	飲み物やおやつ希望をお聞きして、できるだけ個々が楽しめるようにしている。おやつは手作りが好評で、パン作りを利用者様として楽しんだり工夫している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のパターンを把握して、個々に合わせて排泄の支援をしている。	○	排泄表を使用して、排泄のパターンを把握して、個々にあった介助、誘導等で5～6名の利用者様が、おむつを全く使用しなくなった。できるだけ、おむつを使用せず気持ちよく排泄ができるように努め取り組んでいる。夜のみ、おむつの使用が必要な方には不衛生にならないように配慮している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の曜日や時間はだいたい決まっているが、体調や希望に沿いつつでも入浴ができるようにしている。	○	入浴の順番、特に一番風呂に誰が入るかを気にされる方が多く、入浴順番表を作成して、各自平等になるようにしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご自分のペースや自己判断で休息や睡眠を取っている。自己判断が困難な方については、状況や意思の確認をして、休息をしていただくように誘導することもある。	○	気持ちよく安眠や休息をしていただくために、居室内の温度や湿度、風の通りや明るさに配慮している。また、眠れない時は温かい飲み物を飲んでもらったり、コミュニケーションを取る支援をしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日、自らご自分の役割を行なって下さっている。利用者様が自信を持っていただける様に職員は必ず感謝の気持ちを伝えている。外出行事やホーム内の行事は利用者様と職員で相談して決めている。	○	沢山の役割を持っていただくのではなく、少しの事を自主的に続けていただき、役割を持つことで毎日の張り合いのある生活になるよう取り組んでいる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いとして、事業所で預かるようにしているが、一人ひとりの希望や力によって対応している。	○	お金が管理できる方には、ご家族様とも話し合い、お持ちいただいている。管理は難しい方もご家族の協力を得て小額のお金を持っている。それぞれ利用者様に合わせて支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物や散歩はできるだけ行い、外出の機会を取っている。また、レストランでの食事やお弁当を持って出かける事もある。	○	季節的に散歩が困難な冬などは、大きなショッピングセンターへ出かけ、できるだけ外出の機会を作っているが、個々の希望に沿えない事があるため、時間の取り方の工夫、人員の確保を検討していきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出行事として、月に1～2回は行なっている。(回転寿司、バイクなど)ご家族様との外出は個人差はあるが、できるだけ機会をつくれるように支援している。	○	長時間の外出については、職員の対応ができないため、ご家族様にお話してご本人様の希望が叶うようにご家族様に対応していただいている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	制限は特になく、利用者様が直接お電話をしたり、お電話があった場合はおつなぎしている。手紙のやりとりも行なっている。	○	お電話をご自分でできない時は職員が介助して利用者様に、お話していただいている。お手紙に関しても、返信の希望があれば、代筆している。ご本人様が手紙を理解できない場合はご本人様のご様子をお手紙にてお出ししている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問に関しての規制はなく、いつでも気軽に来ていただき、規制もないため居室などでゆっくりと過ごしていただいている。	○	お茶やお菓子をお出して、くつろげるように配慮している。状況によってはお食事を一緒に食べてもらい、家庭的な雰囲気を出せるように配慮している。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	身体拘束がないように、社内研修や外部研修に参加している。また、身体拘束のリスクについて、ユニット会議で管理者が話している。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は開錠されている。	○	夜間は施錠しているが、日中については開錠している。入り口に鈴付きの暖簾をして出入りに気づけるようにしている。玄関や階段のフロアにセンサーを設置しているが、センサーに頼らず、見守りを強化し、施錠せず対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	フロアで記録を書きながら、常に所在確認を行っている。、居室でお過ごしの方については、様子を伺い確認を行い安全を確保できるように努めている。	○	日中については、プライバシーに配慮しノックをして声かけて訪室している。夜間は定期的に訪室して、安否確認をしている。個々の状態によって、頻繁に確認したり、覚醒時に転倒の危険が高い方の近くで待機し、安全に配慮している。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬、洗剤、刃物等は見えない所や鍵付きの保管場所に保管をしている。日常的に使用する個人の洗顔石けんや入れ歯洗浄剤などは個々の状態に応じ制限はしていない。	○	異食行為のある方が入居されたり、異食行為が出現した時は、制限が生じてくる事も考えられ、できるだけ制限が少なく危険がないように取り組んでいきたい。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒防止に歩行の障害になる物の撤去、転倒の危険性の高い方には近くで記録しながらの見守り、窒息については、見守りができる場所での摂取や食事3回職員と一緒に食べ常に観察し、誤薬については、氏名、日付、時間帯を声に出して確認している。行方不明に関しては、所在確認を頻繁に行っている。火災についても定期的に訓練や講習を実施している。	○	事故防止の取り組みの他にヒヤリハットの記録や、万が一、事故が起きてしまった時はインシデントレポートに記入し、事故の原因、今後の対応について検討している。また、研修や講習に参加しており、緊急のマニュアルも作成している。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防士による救急法の講習を受けた。また、新入職員は本社主催の緊急時の対応について受講している。	○	緊急時対応のマニュアルを作成している。急変、事故発生時に、迅速に対応ができるように、訓練を多くして行きたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の指導の下、避難訓練を実施、地域の方にも参加していただいている。	○	地域の方々との連携体制を整えるために、緊急時の連絡網を作り、地域の協力をいただけるように承諾をいただいている。また、町内の総会に参加の依頼を受けており、地域との体制を整える取り組みをしている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	転倒の可能性のある方には、活動や外出時のリスクをご家族様に具体的に説明、理解を得られるように努めている。また、ご家族様と、話し合い抑圧感がなく、暮らしていける最善策を考え、相談して実施している。	○	ご家族様の了解をいただき、医師にも相談して、リスクを抱えながらも抑圧感なく暮らしていけるように、時間をかけて取り組み、生活をしている利用者様もいる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定、水分の摂取状況、排泄状況のチェックを行い、体調の変化に気をつけ、変化や気になる事、様子がおかしいなど、勤務している職員間で確認し合い、迅速な対応に努めている。	○	日々、個々を観察して顔色や行動の変化などに気づいた時も、情報を共有できるように、記録や申し送り、介護日誌を活用している。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方されている薬のリストは常に各自のケース記録に閉じてあり、いつでも確認ができるようになっていいる。服薬の時は誤薬がないように、必ず名前、日付、時間を声に出して確認し、飲み込むまで確認し支援している。	○	薬により、副作用を起こすため食べさせてはいけない物については、台所に表にして直ぐに確認できるようにしている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便の確認、チェック表に記録して、便秘にならないように気をつけている。毎日、体操を行ない、水分の少ない方には水分をすすめ、便秘がちの方には、牛乳、ヨーグルト、野菜ジュースなど便通をよくする捕食をすすめたり、毎日の主食に五穀米を混ぜ工夫している。	○	便秘がなかなか解消されない方には、かかりつけ医師に相談し、下剤の服用をされている方もいるが、体操、捕食などでスムーズな排便のリズムができていいる。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアを毎食後実施しており、チェックのしている。夕食後は洗剤を使用して、清潔を保てるように支援している。	○	歯科の健診を行い、歯磨き指導をしていただいたり、介助が必要な方には職員の方で仕上げ磨きをし、清潔保持に努めている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士により、カロリー計算がなされており、バランスのよい献立となっている。水分、食事量のチェックをし、不足時は補うように努めている。	○	好きな物、嫌いな物情報を把握して活用している。また、個別性を配慮して量や器の大きさにも配慮している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを用意している。手洗い、うがいを習慣とるように努め、手すりや取っ手など多くの方が触れる所は消毒を施行している。来訪された方にも、手洗い、うがいをお願いして予防に努めている。	○	事業者より、インフルエンザ予防接種を負担してくれており職員は、積極的に受けている。また、利用者様とご家族様の同意を得てワクチンの接種をしている。下痢、嘔吐物の処理のマニュアルがあり、処理セットを用意してあり、感染対策に取り組んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、調理器具の消毒の徹底を行なっている。食材は新鮮な物が届けられ、使いきれぬ量になっている。調理して残った物は処分し、食中毒のないように努めている。	○	食中毒予防のため、栄養士が各ホームを見てまわり、指導している。また、食材の取り扱いについても、指導しており食中毒の予防を徹底している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに花壇があり、近隣の方や大家さんが季節の花を植えてくださり、明るい印象である。建物の周りも広い畑や、車で来られた方のために、駐車スペースも多くあり、いつでも気軽に来てくださるように配慮している。	○	玄関先にはスロープがあり、手すりもあり安全面にも配慮されている。また、こども110番に登録して、玄関先にステッカーを貼ってあり、安心して入りやすい工夫ともなっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じていただくために、季節の花を飾り、季節ごとに利用者様と相談して壁絵を作成し、昔ながらの季節の行事を大切に行なっている。家庭的な雰囲気づくりをしており、居心地よく過ごせるように、清潔感ある空間づくりをしている。	○	対面キッチンになっており、調理の音や匂いを感じられる。また、入りやすくなっており、一緒に調理や片付けを楽しむことができる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室で一人でくつろげる空間が確保されており、共用の空間ではソファや食卓でくつろげ、面談室では気の合った方が自由に談笑して過ごしている。	○	共用の空間をよりこころい空間にするため、利用者様も意見をいただきソファや食卓テーブルを移動したこともあった。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた馴染みの物を持ち込んでいただいております、ご本人様がゆったりと過ごせる空間となっている。	○	ご家族様と相談し、くつろげる空間作りをしているため、ご家族様とゆったりと過ごせており、一緒にお昼ねをされたり、お茶を召し上がりながら談笑している。また、空間が維持できるように努めている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日換気は行なっている。温度調整も利用者様の状況に合わせてまめに行なっている。	○	乾燥の季節には湿度を維持するために、加湿器や濡れタオルを使用している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの設置、バリアフリー、車椅子でも対応できるトイレが2箇所、階段のほかにエレベーターが設置されており、安全な環境づくりをしている。	○	利用者様に身体状況の変化がみられ、安全に生活ができるように検討して、手すりを増やしたり、浴槽内にイスを設置した。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者様の状態を把握し、個人に合わせて、混乱や失敗を最小限に防げるように工夫して最善の対応ができるようにしている。混乱や失敗をしてしまった場合はさりげなく職員が対応している。また、混乱が最小限になる様に職員間で検討し取り組んでいる。	○	居室の入り口に手作りのネームプレートを作成したり、トイレがわかりやすいように張り紙をして、混乱や失敗を招かないようにしている。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭には畑を作り、野菜やお花を植えて収穫を楽しんでいただいている。ベランダには洗濯物を干せるように活用したり、プランターにお花を植えてベランダでも楽しめるようにしている。	○	畑仕事全般を入居者様と職員で行なう事はやや難しく、地域のボランティアの方や近所の畑や花に詳しい方のお手伝いをいただき行なっている。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ◎②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ◎①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ◎②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ◎①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ◎③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>◎①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>◎①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>◎①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>◎①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・毎日、北国の春体操、ラジオ体操、上下肢運動を行い、身体機能の低下を予防している。
- ・利用者様と相談しながら、協働で作業できるものを決めて実施している。(貼り絵、外出行事、外食、行事の写真の整理)
- ・カラオケで歌をうたい、楽しみ、電子ピアノで合唱したり、音楽療法の要素を取り入れている。
- ・手作りのおやつや飾り物、座布団カバーなど、利用者様・職員が手作りの物を愛用し温かさを醸し出している。
- ・自立支援に男女問わず掃除、洗濯、炊事、全般でそれぞれ分担し役割をもっている。